

障害のある人もない人も共生する社会の実現に向けた普及啓発について

1 概要

令和3年4月に「障害を理由とする差別を解消し障害のある人もない人も共生する社会づくり条例」及び「手話言語条例」が施行されたことを機に、今年度から条例に規定する共生社会の実現に向けた普及啓発や手話の普及に関連する各種事業に取り組んでいる。

2 取組内容

(1) 普及啓発用リーフレットの作成

学校において総合学習等で使用することも想定したリーフレット25,000部を作成。1月下旬に県内全小学校に配布している。

このほか、商品販売・サービス分野の事業者向けリーフレット6,000部を作成しており、今後、商工会等を通じて、各事業者への配布を予定している。

(2) ラジオ放送による普及啓発

6月からDate FMで、障害を理由とする差別の解消について、1分番組の放送を令和4年3月までに計25回実施することとしている（1月31日時点で、21回放送済）。

このほか、8月、11月、12月には、合理的な配慮のための環境整備促進事業補助金や助け合いアプリの実証事業、障害者週間について、3分番組（電話インタビュー）の放送を行っている。

(3) 合理的な配慮のための環境整備促進事業補助金

県内事業者が、障害者に配慮した環境整備を行う場合に整備費用を助成し、その優れたモデル的取組を県民や事業者に広く情報発信する（補助率4分の3：補助上限額1,000千円）。

これまでに10件、約800万円の交付決定を行っている。

(4) スマートフォン用アプリを活用した助け合い実証事業

スマートフォン用アプリ「May i i（メイアイ）」の手助けマッチング機能を活用して、手助けを必要とする人と手助けしたい人とを繋ぐことにより、特に学生など若い世代と障害者との交流機会の拡大や相互理解を促す。

【これまでの動きと今後の予定】

令和3年 7月18日 10月15日	障害当事者と東北福祉大学の学生によるアプリを用いた体験交流会の開催
令和3年11月～ 12月	仙台市内の大学へ協力の働きかけ
令和4年 1月26日	仙台市を実証エリアとする本格実証を開始 大学生を対象にした障害者に対する理解を深めるための講演会を開催
令和4年 2月以降	ポスター、リーフレットの配布 体験交流会の様子をまとめた動画の活用 ターゲット層向けアプリイベント・体験交流会の開催 等

(5) 手話の普及に関する事業

県職員向け手話勉強会を県庁のほか、気仙沼保健福祉事務所と仙南保健福祉事務所で開催している。

また、「みみサポみやぎ」を通じて、県民向け「初めての手話教室（全3回）」を柴田町と気仙沼市でそれぞれ開催しているほか、柴田町では、聴覚障害のある人も参加して手話教室の参加者と交流する「手話で語る会（全3回）」を開催しており、気仙沼市においても今後開催を予定している。

このほか、「中途失聴・難聴者のための初めての手話教室（全9回）」を仙台市で開催している。

○合理的な配慮のための環境整備整備促進事業補助金について

NO.	所在地	申請者（屋号等）	業種	補助事業の内容
1	仙台市 青葉区	ホテル湯の原荘	宿泊業	トイレを車いす対応に改修
2	仙台市 太白区	ホテル華乃湯	宿泊業	和洋室に改修（露天風呂付き和室） 手すり（設置和洋室の入口）
3	仙台市 泉区	株式会社 ミクニライフ&オート	販売業 （福祉車両）	スロープ（事務所入口） 和式トイレを洋式に改修
4	仙台市 泉区	バーバーシック	理容業	手すり（トイレ） 自動開閉できる便器へ交換
5	名取市	南桜介護事務所	福祉事業所	手すり付スロープ（建物入口）
6	大崎市	葬祭会館 プラムストーン	葬祭会館	手すり（店舗入口の階段） 手すり付スロープ（会館入口）
7	大崎市	初音旅館	宿泊業	手すり（玄関及び浴室の階段部分）
8	登米市	民宿ふどうまえ	宿泊業	手すり付スロープ（玄関前）
9	気仙沼市	旅館 海光館	宿泊業	洋室に改修（1階の和室）
10	南三陸町	南三陸ホテル観洋	宿泊業	スロープ（ホテル入口） 手すり（ホテル館内のスロープ）

補助事業を活用して環境整備を行った例

【改修前】

【改修後】

No.8



No.3



障害者に対する理解を深めるための講演会
～助け合いアプリ「Mayii（メイアイ）」本格実証スタートイベント～

日 時 令和4年1月26日（水）
午後3時から午後4時30分まで
場 所 TKPガーデンシティ仙台勾当台 ホール1

次 第

1 開 会

2 講 演（15：05～15：45）

（1）車いすユーザーとして日頃感じていること，共生社会に向けた思い

講師 岩城 一美 氏

（2）視覚障害者として日頃感じていること，共生社会に向けた思い

講師 堀内 豊 氏

（休憩 5分）

3 共生社会の実現に向けた県の取組について（15：50～16：00）

障害福祉課 日野原 武典

4 助け合いアプリ「Mayii（メイアイ）」の説明（16：00～16：10）

大日本印刷株式会社 松尾 佳菜子 氏

5 知事と学生等との意見交換（16：10～16：25）

あいさつ

宮城県知事 村井 嘉浩

意見交換

6 記念撮影

（16：25～16：30）

講演会参加者

○各大学の学生

東北福祉大学，東北学院大学，仙台白百合女子大学，宮城教育大学，宮城大学，
宮城学院女子大学，東北大学

○ボランティアの方々



アプリ「メイアイ」の支援を依頼する画面

障害者の困り事支援

仙台県がアプリ実証開始

県は26日、障害者が外出先での困り事をスマートフォンで周囲に知らせ解決を図る実証事業を仙台市内で本格スタートさせた。大日本印刷の無料アプリ「May i i (メイアイ)」の助けマッチング機能を活用。学生ら若い世代と障害者との交流の機会を広げ、

相互理解を促す。

障害者がアプリで「スロープを上るのに車いすを押してほしい」「道案内をしてほしい」といった支援を依頼。衛星利用測位システム(GPS)で、一定の範囲内にいる事前登録した支援者に依頼内容を伝える。チャット機能によるやりとりもできる。

相手に違和感や不安を感じた場合は、支援を辞退することもできる。利用時間は人目に付く午前8時～午後8時に設定されている。県は実証事業開始に合わ

せ、仙台市内で障害への理解を深めるイベントを開いた。学生や障害者ら約50人が参加し、共生社会の実現に向けて村井嘉浩知事と意見交換した。

宮城教育大1年の和田穂乃香さん(19)は、電車で妊婦に席を譲ったつもりが、別の人に座られた経験を紹介。「本当に支援を必要としているのか考え、困っている人がいても声を掛けるのをためらってしまう」と明かした。

村井知事は「理解し合うことが重要だ。アプリは障害者との壁を取り除くいいツールになる」と訴えた。

目的地 行き方は / 店入り口どこ

県は26日、体が不自由だったり、日本語に不慣れだったりして外出先で困っている人と、サポートしたい人をつなぐスマートフォンアプリの実証実験を仙台市内で始めた。市民同士の助け合いの機会を作り出し、共生社会の実現を目指す。

アプリは大日本印刷（東京）が開発した「May ii（メイアイ）」を活用。依頼者が「目的地への行き方が分からない」「お店の入り口が分からない」など30項目から困り事を選ぶと、半径約500m圏内のアプリ利用者に通知される。サポートしたい側が手

「困った」発信▼助っ人急行

スマホアプリ

仙台で実証実験

を挙げ、依頼者が合意するとマッチングが成立。全球測位システム（GPS）やチャット機能を使って合流する。アプリを通すことで、「他人に助けを頼む・助ける」という双方の心理的なハードルを下げる狙い。

◆May iiアプリの仕組み



対象地域は仙台市全域で利用時間は午前8時～午後8時。18歳以上の全ての人を利用できる。困った人をサポートするとポイントがもらえるほか、犯罪被害を防ぐため、緊急連絡機能もある。県は2022年度中は実証実験を行い、効果を検証する。

26日は、実験のスタートに合わせたイベントが開かれ、県内の大学生ら約60人が参加した。アプリを使ったサポートの実演のほか、車いす利用者や視覚障害者が普段の生活での困り事と、あると助かるサポートについて説明した。東北福祉大2年、佐藤梓さん（20）は「街中で誰が何に困っているか分からなかった。困っている人をアプリで見つけたら手助けしてみたい」と話した。